

# 創立100周年記念事業・行事

## ごあいさつ

本学院は大正14(1925)年に故山崎直文先生によって創立された「山崎鍼灸学院」を起源とし、令和7(2025)年に創立100周年を迎えます。振り返りますと、創立90周年記念事業「スポーツ振興プロジェクト」を皮切りに「スポーツメディカリスト」「メディカルアスレチックトレーナー(MAT)※本学認定資格」といったスポーツ現場における即戦力の育成と輩出に加え、学生アスリート達は僅か数年で日本一に輝き、さらには世界を舞台に活躍できるまでとなりました。また、収容定員増、保健医療学部救急救命学科及び大学院保健医療学研究科柔道整復学専攻(修士課程)ならびに同保健学専攻(修士課程・博士後期課程※令和6年4月開設)の設置等、教育・研究環境の充実にも努めて参りました。18歳人口減少など大学等を取り巻く状況は厳しくもありますが、本学院にとりましては未来に希望を育てる状況において大きな節目を迎えられることはこの上ない喜びであり、支えて下さった多くの皆様のお陰であると深く感謝申し上げます。我々教職員一同、建学の精神である「和の精神」のもと、諸先輩方の情熱と信念を継承し「明治国際医療大学(旧校名 明治鍼灸大学)」「明治東洋医学院専門学校」を次の100年に繋ぐ使命を果たすべく邁進して参る所存です。

本学院では来る創立100周年に向け新学部の設置構想、また硬式野球場の新設をはじめとするスポーツ施設の整備や改修など学生サービスの更なる充実を図るほか、様々な記念事業を展開する運びとなりました。これらの実現には自助努力は勿論のこと、皆様からのご支援が何より大きな支えとなります。甚だ勝手なお願いとなりますが、寄付募集の趣旨にご賛同いただき、格別のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

学校法人 明治東洋医学院 理事長 谷口 和彦

### 1 式典等

令和7(2025)年11月30日(日)  
記念式典・祝賀会の開催

### 2 同窓会事業

令和6(2024)年10月13日(日)  
100周年記念学術大会・懇親会の開催

### 3 スポーツ事業

令和7(2025)年3月・11月予定  
スポーツ振興10周年記念大会・記念講演会の開催

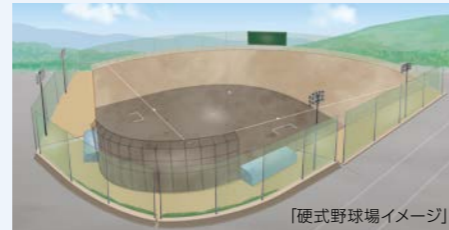
### 4 文化事業

令和7(2025)年6月22日(日)  
100周年記念講演会の開催

### 5 100周年記念誌の発刊

### 6 教育環境整備事業

大学スポーツ施設の整備  
(硬式野球場・ブルペン施設の新設、サッカー場人工芝の改修)



「硬式野球場イメージ」

### 7 新学部の設置計画

令和7(2025)年度設置認可申請予定

### 8 明治東洋医学院 創立100周年記念事業募金

<https://www.meiji-u.ac.jp/100th/>



谷口健藏先生叙勲記念像と顕彰碑(明治国際医療大学)

# 明治国際医療大学

看護学部[看護学科] \* 保健医療学部[救急救命学科・柔道整復学科] \* 鍼灸学部[鍼灸学科]  
大学院[鍼灸学研究科・保健医療学研究科]

〒629-0392 京都府南丹市日吉町 TEL 0771-72-1181 FAX 0771-72-1189 E-mail [gakusei-shien@mst.meiji-u.ac.jp](mailto:gakusei-shien@mst.meiji-u.ac.jp)



# 明治国際医療大学だより

Meiji University of Integrative Medicine News Letter

Vol.26



## ご卒業、おめでとうございます!

優しい春の風に包まれた3月12日(火)、卒業生219名が覚悟と誇りを胸に、新たな門出を迎えました。当日は、勝見学長の卒業生に向けた温かい式辞に始まり、各学部の代表者が卒業証書・学位記を受け取った後、看護学科の石田ひなたさんが学生の代表としてこれまでの学校生活の思い出と感謝の気持ちを答辞で述べました。卒業記念パーティーでは、お世話になった先生方への感謝の気持ちを込めて花束贈呈を行い、先生方からは卒業生に向けて応援のメッセージを贈られました。卒業生は夢に向かった仲間たちとの笑いと涙にあふれた最後の時間を過ごしました。人生は、日々勉強。それぞれのステージに進んでも、建学の精神にある「和」を大切に、これからも学び続けてほしいと思います。

### 成績優秀表彰者

- 学 長 賞 犬飼 昂希 (鍼灸学科)
- 野本 真衣 (柔道整復学科)
- 森岡 美羽 (救急救命学科)
- 石田 ひなた (看護学科)
- 谷口 健 藏 賞 永田 宏子 (鍼灸学研究科 博士後期課程)
- 特別 功 労 賞 河村 祐実 (鍼灸学科)
- 岡 百々花 (柔道整復学科)
- 宮城 杏優菜 (柔道整復学科)
- 教育振興会会長賞 吉崎 鈴夏 (鍼灸学科)
- 鈴木 菜央 (柔道整復学科)
- 河野 聖司 (救急救命学科)
- 教育 振 興 会 会 長 賞 井藤 美空 (看護学科)
- 全日本 鍼灸学会 会長 表彰 松宮 容子 (鍼灸学科)
- 鍼灸学系 大学協議会 優秀賞 吉崎 鈴夏 (鍼灸学科)
- 日本 鍼灸師会 表彰 飯田 あんり (鍼灸学科)
- 全日本鍼灸マッサージ師会表彰 小野 真未 (鍼灸学科)
- 日本柔道整復接骨医学会賞 横山 昇汰 (柔道整復学科)
- 日本柔道整復師会表彰 端山 新 (柔道整復学科)
- 全国救急救命士教育施設協議会表彰 須田 麻鈴 (救急救命学科)
- 日本私立看護系大学協会表彰 堀 彩美 (看護学科)
- 京都府看護協会花束贈呈 赤池 颯太 (看護学科)



## 鍼灸学部 鍼灸学科

### 南丹市社会福祉協議会と連携した新たな取り組みについて紹介します

鍼灸学部では、これまでにない初めての取り組みとして、南丹市社会福祉協議会と連携を図り、鍼灸師を目指した学生主体の健康サポートを実施しました。

本実習は4年次の「はり・きゅう学外臨床実習」の一環として行い、高齢者をはじめ、健康維持・増進に不安のある方の健康の維持・増進を目的に健康サポート（健康講座）を行うこと、また、大学での学びを地域に還元し、高齢者や地域住民とつながることさらなる学びの実践の場とすることを目標としています。

今年度は、美山町、日吉町など地元の5ヶ所のサロンに出向き、健康の維持・増進（フレイル・認知症予防等）や養生実践のための講座を実施しました。参加者の中には100歳の方もおられ、「この歳になって新たなことを教えてもらえて嬉しい」などと感想を頂きました。また、学生からも「このような貴重な経験を今後の臨床で生かしていきたい、今後も自分で開催してみたい」などと感想が聞かれました。学生が地域住民と交流し、密接に関わることは、地域を活性化することにもつながり、今後、人口減少が加速化するとされている南丹市においては、学生などの若者の力が地域の活性化に必要不可欠であると考えられ、今後も継続して実施する予定です。



## 保健医療学部 柔道整復学科

### 入学前教育

2024年2月23日に第3回目の入学前教育が行われ、今回は「フライドチキンで学ぼう!」をテーマにチキンを使って解剖学実習を行いました。昨年度まではコロナ渦ということもあり来校しての授業ができなかったのですが、今年度はチキンを食べながら骨、筋、神経等を解剖し、体の仕組みを楽しく学ぶことができたと思います。在学生（3名）にも協力していただき、同級生だけではなく先輩との交流も深まり、充実した時間を送ることができました。



### 見学実習

柔道整復師になるための基礎的な学習を終えて、見学実習も修めてきた3年生は臨床実習の仕上げとして、スキー場の救護室でケガした人たちの対応を通して学びを深めます。救護所では、スキー場特有の救護法を学んだり、教科書で写真やイラストで示されていたケガをされた人に問診をしたり、患部を触らせていただいたり、患部を固定する際の補助をしたりすることで大学構内では体験することのできない患者対応を学ぶことができました。



## 保健医療学部 救急救命学科

# コロナ禍を乗り越え見えてきた本来の姿

### 学外実習本格再開！海に河川、雪山、海外！

昨年度までは新型コロナウイルスの感染状況を鑑み規模を縮小して学外実習を実施していましたが、今年度から少しずつ本来の様子が戻って参りました。1年生は若狭和田海水浴場にてライフセービング実習、都市型救助実習での救助訓練にて救急救命の基礎や安全確保の重要性を身に付けました。2年生は保津川にてウォーターレスキュー実習、ハチ高原スキー場でのマウンテンレスキュー実習を通して自然の美しさと危険性を学びました。3年生は3月下旬に4年ぶりとなる海外実習が控えております。

感染対策も十分に行いつつ、少しずつではありますが、「即戦力となる救命士」を目指して新たな一歩を踏み出していきます。

### ライフセービング実習



### 都市型救助実習



### スポーツボランティア実習



### 学生救急救命技術選手権 第15回西日本大会にて2年連続総合優勝！！

救急救命士養成課程の学生の技術と知識を競う大会である「学生救急救命技術選手権」に当学科の3年生が出場しました。様々な救急現場を模したステーションで活動を行い、総合優勝を果たしました。昨年度の初優勝に続いての2年連続の快挙となります。いつか出会う傷病者のために早朝から遅い時間まで学生たちも全力を尽くしました。

### 西日本大会選手権





## 看護学部 4年生の壮行会

### 看護師国家試験に挑む学生の前途を祝して

2024年2月11日に看護師国家試験が行われました。この1か月前に看護学部4年生の壮行会をしました。壮行会では教員から受験に向けて緊張しないためのコツや心構えなどのアドバイスだけでなく、学生に大きなエールを届けました。地元にある日本最古の天満宮である「生見天満宮」に合格祈禱の際にいただいた合格梅と、教員の熱いメッセージカード入りの「合格グッズ」を4年生全員が受け取りました。その後、昨年の春に4年生全員で決めたクラスのテーマ「国家試験全員合格!!!!」

コツコツが勝つコツ互助しか勝たん!! エイエイオー!」と全員で気合をいれて一本締めでしめました。

看護師国家試験模擬試験では、回を増すごとに全国平均を上回る成績結果を残しています。学生皆さんの努力はこれからの糧となっていくことでしょう。

看護学部国家試験対策委員長



## 大学院 鍼灸学研究科

### 小関晋作さん博士課程での学びと試み

今年度、博士課程を卒業される小関さんに、大学院での学びと新たな挑戦についてお聞きしました。「医食同源」や「身土不二」という言葉に代表されるよう、食と健康は切っても切れない関係にあります。加えて、農山村地域では人口の減少や高齢化が進んでおり、それに伴い農山村の衰退が社会問題になりつつあります。私は大学院で鍼治療がなぜ効くのかについて研究を進める傍ら、東洋医学を活用した地域創生の活動の一環として、地域の方に耕作放棄地をお借りし農業にも挑戦してきました。全くの初心者なので右往左往ばかりして周りの方々に助けてもらってばかりの毎日です。

そのような中、第1回日本地域健康医療コミュニティ研究会という発表会で、健康の側面から農山村地域を活性化するというテーマでお話する機会を頂きました。特に、ヘルスツーリズムに代表されるような、健康を目的とした農山村地域への旅行の可能性や農業を経験していく中で私自身が感じたことについて発表をしました。

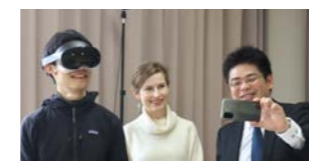
大学院卒業後も南丹地域に残る予定なので、「食と健康」を軸に鍼灸師としての活動を続けながら農業にも力を入れていきたいと思っています。これらの活動を通して、東洋医学を通じた地域の活性化に寄与できればと考えています。



## 大学院 保健医療学研究科 保健学専攻

### 2024年4月大学院保健医療学研究科保健学専攻に博士課程設置が設置される

2022年4月大学院保健医療学研究科に保健学専攻修士課程が設置され、これまでに4名の学生が入学しました。そのうち、2名は本学の看護学部卒業生、1名は鍼灸学部卒業生です。また職種も、看護師、保健師、助産師、鍼灸師、救急救命士と多職種に跨っています。長期履修制度も活用し、仕事と研究の両立を図りながら、新たな知の探究に励んでいます。2024年度には保健学専攻に博士課程設置が設置され、先駆的な研究に挑む大学院生が増え、大学院修了者の進路も多様になります。



卒業生の皆様、是非大学院に進学し、知の探究にチャレンジしてみませんか。ビジョン多き大学院生をお待ちしています。

大学院保健医療学研究科 研究科長/看護学部長 桂 敏樹

## 女子柔道部 高木選手が国際大会で活躍



国際大会で活躍した高木選手

団体戦での上位進出はなりませんでした。2023年シーズンは個人戦で躍動。高木水月選手(救急救命学科2年)が、女子63kg級で9月の日本ジュニアを制したのを皮切りにポルトガルのオディベラスで行われた2023年世界ジュニア選手権大会で銀メダルを獲得。その活躍が認められ出場したシニアの国際大会でもあるグランドスラム東京2023でも五輪メダリストらを次々と撃破し堂々の銅メダルに輝くなど結果を残しました。さらに学生日本一を決める2023全日本学生柔道体重別選手権大会の女子78kg超級で川口鈴王選手(柔道整復学科2年)が2位に入ったほか、日本のトップクラスが集う講道館杯でも宮城杏優菜選手(柔道整復学科4年)が48kg級で5位入賞を果たすなど気を吐きました。

## 女子サッカー部 4年連続6回目の全国でベスト8進出 4人がなでしこリーグに内定

2023年秋のリーグ戦(関西1部)を5勝1敗1分で終え、春季リーグに続き2季連続2度目のリーグ制覇を果たした女子サッカー部。関西チャンピオンとして臨んだ4年連続6回目の全国大会(第32回全日本大学女子サッカー選手権大会)では、2回戦で福岡大学と対戦。前半から主導権を握り5-1で快勝し、第30回大会以来2年ぶり2度目のベスト8進出を果たしました。準々決勝では関東覇者で後に初優勝を果たした山梨学院大学と対戦。前線でパスをつなぐ持ち前のサッカーを展開し先制点を奪いますが、相手の上背を生かしたセットプレーなどで失点。善戦するも2-4で敗れ、悲願のベスト4進出はなりませんでした。

また、チームの主軸として活躍した4年生4人がなでしこリーグの各クラブに内定。内定者は愛媛FCレディーズ(なでしこリーグ1部)に進むFWの俣野侘奈選手(鍼灸学科4年日ノ本学園)、ニッパツ横浜FCシーガルズ(なでしこリーグ1部)に

進む同じくFWの岡百々花選手(柔道整復学科4年鳴門渦潮)、ディオッサ出雲FC(2024年度よりなでしこリーグ2部)入りするFWの河村祐実選手(鍼灸学科4年神戸弘陵学園)、DFの大田朱莉選手(鍼灸学科4年広島文教)の4選手です。卒業後も上位リーグでの活躍が期待されます。引き続き応援よろしくお祈りいたします。



左から俣野、河村、岡、大田選手





陸上競技部

関西学生ハーフで古西選手が優勝

1月28日(日)、19年ぶりに女子マラソンの日本記録が更新された大阪国際女子マラソンと同時開催の第5回関西学生ハーフマラソン選手権大会が大阪市内の大阪ハーフマラソンコースで行われ、本学陸上競技部の古西亜海選手(鍼灸学科2年)が自己ベストを2分近く更新する1時間11分40秒の好タイムで優勝。同時開催の大阪ハーフマラソンでも、実業団の強豪選手に混じり8位入賞を果たすなど活躍しました。



硬式野球部

参入2年目で1部にスピード昇格



準硬式から硬式野球部となり京滋大学野球連盟に加入して4季目のシーズンとなった2023年秋季リーグ(2部)。本戦を7勝3敗の首位タイで終え、京都工芸繊維大学との優勝決定戦へ。激戦となるも3対2のサヨナラで勝利し初優勝を果たします。続く滋賀大学との入れ替え戦も、1勝1敗で迎えた最終戦を7対3で勝利し、参入2年目という異例の早さで1部昇格を決めました。応援ありがとうございました。

第44回たには祭

2023年10月15日(日)に第44回たには祭を開催しました。学園祭のテーマは、「繋げ!たにはの輪 ~Changes for the better~」と称し、実行委員長の救急救命学科2年生 島袋くんをはじめ、実行委員たちは学科学年を超えて繋がり・絆を築き、昨年3年ぶりの復活を遂げた学園祭を見事に今年に繋ぎました。当日は天候に恵まれ、晴天の中「よしもと芸人お笑いライブ」(ヘンダーソン・田津原理音)、並びに学生による「フリーライブショー」「歌うまカラオケ大会」「学生の主張」「仮装コンテスト」と大いに盛り上がり、模擬店やキッチンカーなど12店舗は、賑わいをみせました。来場者は330人を超え、在校生、教職員など大学関係者に加え、同窓生、近隣の方にもお越しいただき盛況に幕を閉じました。



令和5年度 近畿地方発明表彰において 矢野名誉学長が奈良県知事賞を受賞

この度、岡本株式会社の受託研究で開発した冷え性改善靴下が下記の経過を得て完成した「まるでこたつソックス」が令和5年度近畿地方発明表彰において矢野忠名誉学長が奈良県知事賞を受賞され、表彰式が令和5年11月14日(火)神戸ポートピアホテルにおいて開催されました。

【開発の経過】

平成21年：岡本株式会社との共同研究開発を開始  
 受託研究「ツボ刺激を応用した冷え症に効果的なソックスの開発とその評価」  
 平成23年：研究成果発表 日本繊維製品消費科学会 2011年度年次大会「ツボ刺激を応用した冷え性改善靴下の開発」  
 平成24年：研究成果発表 日本繊維製品消費科学会 2012年度年次大会「ツボ刺激を応用した冷え性改善靴下の開発(第2報)」  
 平成25年：はくらくシリーズ「三陰交をあたためるソックス」を発売  
 平成27年：靴下サブシリシリーズ「まるでこたつソックス」へリニューアル



※近畿地方発明表彰は、公益社団法人発明協会主催により、近畿7府県(福井・滋賀・京都・大阪・奈良・和歌山・兵庫)において優秀な発明等を完成された方々の功績を、発明等の実施化及び指導、奨励、育成に貢献された方々の功績を称え顕彰するものです

女子柔道部 高木選手が1日消防署長を務めました

令和6年2月26日(月)、女子柔道部の高木水月選手が京都中部広域消防組合の園部消防署からの委嘱を受けて、1日消防署長を務めました。

当日は、放水体験やはしご車の同乗体験をした後、街頭広報や保育施設での防災訓練を実施し、広く住民の皆さんに火災予防の啓発活動を行いました。



お知らせ

令和5年度 教育振興会より図書をご寄贈いただきました。

令和5年度教育振興会予算により101冊(147,862円分)の図書をご寄贈いただきました。話題の小説や新書、学生生活の役に立つ図書等は、特設コーナーに展示し、学修の合間の読書や学生生活の充実に役立てられています。この度のご寄贈に心より御礼申し上げます。